

【学生によるESD支援活動】

奈良市立飛鳥小学校 親子燈花会 支援報告書

教育学専修 学部1回生 本江 美日

1. 日 時 2018年8月6日(月) 18:00~20:30
2. 場 所 奈良市立飛鳥小学校
3. 参加者 奈良市立飛鳥小学校 教員、保護者、児童 複数名
親子燈花会実行委員会2名
仲村幸奈、西田朱音、本江美日、山下野絵(学部生)

4. 概要報告

2018年8月6日(月)、奈良市立飛鳥小学校で親子燈花会が行われ、本学学生4名がその支援に参加した。飛鳥小学校の運動場に、子どもたちが一つひとつカップを並べ、ろうそくに火を灯すというのがメインの活動であった。今年は、「ドラえもん」の燈花会が完成した。また、体育館内では、カスプ飛鳥による太鼓の演奏やビンゴゲームも行われた。さらに飛鳥小学校の先生方が、かき氷やスーパーボールすくいを運営してくださっていた。こ



児童が完成させた燈花会

れらの様々な場面で、子どもたちの笑顔を多く見ることができる活動であった。

今回の活動を通して、私が学び、大切にしたいと考えたことは2つある。1つ目は子どもたちにみんなで1つのものを作る喜びを感じてもらうこと、2つ目は小学校と地域とがつながれる場を作ることである。

まず子どもたちにみんなで1つのものを作る喜びを感じてもらうことについてである。今では奈良の夏の風物詩となった燈花会だが、カップを並べるところから火を灯すまで、すべて子どもたち自身が自分たちで行うことによって、達成感と喜びを感じることができると思った。また、子どもたち一人ひとりが並べて作った燈花が、最後に「ドラえもん」の形として大きな一つの作品となることは、「みんなと一緒に頑張れば、大きなものを作りあげられる」ことを子どもたちに伝えられると感じた。子どもたちも作品を作ることに関わったことから、協調性や責任を持って行動することの大切さに気づくきっかけになったのではないかと考えた。

次に、小学校と地域とがつながれる場を作るについてである。学校でイベントなどを行うことで、自然と先生と保護者、また地域の人々とのコミュニケーションを深めることにつながると実



燈花会のカップを並べる児童の様子

感した。また、夏休みなどの長期休暇に学校でイベントを開催することによって、友達に会う機会にもなり、とても良いと感じた。

この活動を通し、先生方が子どもたちの安全はもちろん、臨機応変に対応されている姿を間近で見ることができ、視野を広げ、周りを見ることの大切さを改めて感じた。また、子どもたちや保護者の方々との会話の重要性を知ることができ、様々な場面での声かけを大切にしていきたいと思った。今回の活動での学びを次の活動につなげていけるよう、これからも取り組んでいきたい。